

## 『越冬の準備』

桑原 紀子

11月も半ばになると、コブシやモクレンの落ち葉で、庭中が埋まりました。カサカサと乾いた音を立てて、次から次に舞い落ちてきます。落ち葉を見ていたら、茶色い蛇がするすると落ち葉の山に潜りました。いつか猫がぐわえてきて救出したヒバカリに違いありません。元気で庭で暮らしていたようです。いよいよ冬越しの準備なのでしょう。落ち葉のなかに隠れて、それきりしんとしていきます。

木々の間に女郎蜘蛛が丸々太って、大きな網を張っています。夏には、細い目立たない身体だったのに、はちきれそうなお腹です。これから卵を産んで、一生を終えるのです。餌が沢山取れる場所に網を張った蜘蛛は、庭中でも一番大きい身体です。裏庭には、まだ痩せた蜘蛛もいました。



色づいたドクダミの葉に鮮やかな白い蝶が止まっていました。蝶のまま越冬するウラギンシジミです。春が来るまで、常緑樹の葉裏で何ヶ月もじっと越冬するのですが、ドクダミはその内枯れて落ちてしまいます。

（大丈夫かな?）

毎日観察することにしました。4日目も5日目も、白い蝶はじっと動きません。でも8日目の朝、蝶の姿は消えていました。暖かい朝で、飛び立ったようです。

木々の葉がすっかり落ちてしまうと、いよいよ冬の始まりです。卵を残すもの、蛹で、成体で、幼虫の姿で、生きもの達は越冬し

ます。

命を守るために、準備を重ねながら本格的な越冬へと生き物の時間が流れる季節です。